

# 平成30年度学校自己評価システムシート (県立庄和高等学校)

目指す学校像	国際社会に目を向け、地域に貢献し、社会で活躍できる人材を育成する学校
--------	------------------------------------

重点目標	1 主体的な学びにより、学習習慣を根付かせ、基礎学力の確実な定着を図り、学力向上に取り組ませる。 2 組織的計画的なキャリア教育により、目標の実現に向け努力を継続させる力を身に付け、行きたい進路の実現に挑戦させる。 3 活力ある学校生活により、責任感、社会性、主体性、協調性を涵養し、心身の健やかな成長を図り、目標を達成する経験を積ませる。 4 効果的に地域・保護者と連携し、協働をすすめながら、各種教育活動に取り組む。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 生徒 事務局(教職員)	名 名 名
-----	-------------------------	-------------

学 校 自 己 評 価								学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 月 日 現 在 )			実 施 日 平 成 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	・基礎学力の定着を目指した、アクティブラーニングを基本とした授業スタイルは昨年度まで概ね確立することができた。今年度はさらにこれらを定着できるように授業展開などを工夫することが必要である。また、多様な生徒のニーズに対応できる、個に応じた学習指導についての、様々な取り組みが必要である。	①授業展開の工夫についての検討・実践が進んだか ②個に応じた学習指導についての検討・実践が進んだか	①アクティブラーニングなど授業展開の工夫を発展させるため、各授業の的確な評価基準や授業レベルの設定について検討する。学力向上委員会の授業アンケートなどを活用し、検討のための情報収集・分析を進める。成績評価の方法についての検討を進める。 ②昨年につづき、学習ヘルプデスクを利用して家庭学習課題を提供する。 ③学力向上にむけた様々な方策を総合的に分析し、学習指導の改善に役立てる。 ④1・2学年は、文章構成力を高め、入試にも活用できるようにするために、「表現トレーニング」を実施する。また、「朝学習」の積極的な取り組み、「漢検」「英検」に向けて意欲の向上を図る。	①各種アンケートにより情報収集し、分析した結果を職員会議、教科会などに提供することができたか。また、現在の成績評価の方法について検討を加え必要な改善ができたか。 ②定期的・継続的に課題を提供し、生徒の家庭学習を促すことができたか。 ③取組の分析により、教科の特性を生かした学習指導を行うことができたか。 ④自己の進路希望をかなえていくための道筋を示せたか。効果的継続的な補習が実施できたか。					
2	・「進路指導計画」に沿って新たな進路行事を企画運営することができた。「行きたい進路への挑戦」をさせるため、今年度はさらに系統的な進路指導を進める必要がある。また今年度から、台湾・オーストラリアとの姉妹校交流が始まる。国際社会に目を向けた人材の育成のため、より効果的な交流計画を立案する必要がある。	①系統的進路指導についての検討・実践が進んだか ②グローバル教育についての検討・実践が進んだか	①進学希望者に対しては、1学年から補習や模試の実施など計画的に取り組んでいく。また、2学年の修学旅行後からは、自分の進むべき進路分野の意識付けをさせ、3学年の9月までに全7回の分野別ガイダンスを実施する。 ②台湾・丹鳳高級中学及びオーストラリア・メリーボロー州立高校と姉妹校協定を結び、生徒同士が交流できる機会を設ける。	①3学年の進路決定率を少しでも引き上げられたか(96.5%以上)。 ①分野ごとに細やかかつ適切な指導ができたか。 ②台湾・丹鳳高級中学及びオーストラリア・メリーボロー州立高校と、姉妹校協定調印式を行ない、歓迎セレモニー・日本文化体験などを通して生徒同士が交流できたか。					
3	・学校行事などにおいて、生徒会生徒が中心となって企画運営に積極的に携わる雰囲気ができてきた。より活力ある学校生活を送らせ、努力して目標達成する経験を積ませる必要がある。	①学校行事などにおいて、多くの生徒が企画運営できる機会を設けられたか ②部活動・生徒会活動が活性化したか	①生徒会主催行事に、個人だけではなく、多くの委員会、部活動の生徒も運営にかかわる機会を設けていく。 ①行事内容の見直しを行い、生徒が主体的で積極的に参加、活動できる行事を企画、運営する。 ①委員会の活性化をはかり、挨拶運動や地域ボランティア、活力ある学校目指した委員会活動内容を考える。(企画) ②生徒会活動の精査、見直しを行い、委員会や部活動に任せられるものは任せる。 ②面倒見のよい部活動を目指し、未加入生徒減少を目指す。 ②部活動の活動場所、施設の確保と改善。部活動の活動時間と適当な活動日数の適正化。	①各行事後にアンケート(生徒と教職員)を実施し、委員会や部活動の生徒が運営に関わる機会を設けられたか。 ①改善点やクレームの内容を検討し、生徒が主体的で積極的に参加、活動できる行事を企画、運営できたか。 ②生徒会行事後にアンケート(生徒と教職員)を実施し、委員会や部活動に積極的に依頼し、協力できる体制を構築できたか。 ②学期ごとに行われるアンケートの中に部活動や行事に関する質問項目を入れて満足度を含む調査を行い、改善を検討できたか。					
4	・昨年度は、地域・同窓会・PTAと協働した進路企画を新設することができた。今年度はさらに、前述の重点項目に対応するプログラムを、地域・保護者と協働して進めることが望ましい。また、保護者などへの情報提供の方法を工夫して進める必要がある。	①地域との連携・協働についての検討・実践が進んだか ②保護者への情報提供・協働についての検討・実践が進んだか	①総学LHRの時間において、3学年では地域の諸問題に対する探究活動を実施し、活動を通して地域と連携する。そのため、1・2学年には、身近な課題を対象に探究活動の技術を習得させる。3学年には、春日部市役所と連携して地域の諸問題を提示する。 ②保護者に対して、HPやメールシステムなどのツールを活用し、公開授業、保護者会など学校に来院する機会についての情報量を増やす。また、生徒の家庭学習の定着について、家庭と協働して取り組める方法を検討する。 ②「職業を知る(進路行事)」実施に向けて、PTA・同窓会との連絡調整を図る	①3年次に地域と連携が取れるように、3年間の実施計画が作成できたか。 ①潤滑な探究活動ができるように、効果的に地域の諸問題を提示できたか。 ②保護者が本校HPを見る回数が増えたか。メールシステムを利用した情報提供が増えたか。家庭学習の定着に向けた家庭との協働の方法の検討が進んだか。 ②「職業を知る(進路行事)」実施に向けて、PTA・同窓会との連絡調整が図れたか					